



<研修レポート>

景観まちづくり・都市デザイン先進事例視察について

水戸市都市計画部都市計画課
景観形成推進室 小貫真奈美

1 はじめに

平成21年9月4日、(財)都市づくりパブリックデザインセンターが主催する現地見学会「景観まちづくり・都市デザイン先進事例視察」に参加しました。

質の高い都市（パブリック）空間の創出、美しいまちなみ景観づくりに先進的に取り組む地区の視察ということで、今回は「横浜みなとみらい地区」を訪れました。

以下、本視察の概要について報告します。

2 みなとみらい21 中央地区

まず、主催者より事業概要について説明がありましたが、その中でも、当該地区における取り組みで以下の3点が特に印象的でした。

<<街づくり基本協定>>

横浜市、三菱地所、三菱重工、JR等の地権者の間で締結したもので、建築物の高さの基準をエリアごとに定める等、周辺環境と調和のとれたまちづくりを推進しています。

<<色彩景観の考え方>>

具体的にマンセル値を定めてエリアごとに色彩基準を細かく設定し、各エリアで特色のある景観の形成を図っています。

<<夜間照明>>

エリアに応じて照明方法を変えるなどして光の広がりや光源色にも配慮し、昼間だけでなく夜間においても美しい景観の形成を目指しています。



◀象の鼻パーク内に設置されている照明装置。時間帯によって照明の色が変化するようです。



グランモール（歩行者専用通行スペース）

3 現地視察～中央地区～

説明のあとは、事業計画が実際にどのような形で反映されているのかを確認するため、事業地区内を歩いて回りました。

地区内を歩いてみて印象的だったことは、地区内のいたるところに緑、ベンチ等の公共スペースが設けられているということです。上の写真は、区画整理によって公園用地（都市公園）として生み出され、都市公園指定がなされている歩行者専用の通行スペースです。水、緑、光といった要素を空間の中に取り入れることによって潤いのある憩いの空間を創ろうとする設計者側の意図が感じられました。

その他に印象的だったのは、地区内の建築物や屋外広告物です。グランモールから見える範囲内にある建築物の外壁は白、グレー、茶を基調とした落ち着いた雰囲気を持つ色で統一されているとともに、建築物を利用して設置する屋外広告物にも、屋上利用のものは設置していない、壁面利用のものは必要最小限の大きさで設置している等の配慮が見られました。

建築物や屋外広告物は、景観形成に大きな影響を与えると考えられるため、これらを設置する場合には、周辺環境と調和したものであるかどうか也十分に検討するべきであると改めて感じました。



4 現地視察～新港地区～

横浜開国 150 周年記念事業のひとつとして、平成 21 年 6 月にオープンした「象の鼻パーク」で今回の現地見学会は解散となりましたが、このあとも各自好きなところを散策してほしいとのことだったので、主に以下の場所に注目して歩いてみました。

《象の鼻パーク》



ユニークな名前の由来は、横浜港開国当時、湾曲した波止場が象の鼻の形に似ていたことから。今回当該地区を再整備するにあたり、設計者を公開プロポーザルで決定したそうですが、地区内にスクリーンと呼ばれる照明装置（前頁左下の写真）が設置される等、ほかの土地にはない、シンボル性の強い地区であるという印象を受けました。

《開港の丘》



象の鼻地区が市民の憩いの場となるようにと設けた芝生の広場には、寝転がってくつろぐ人、読書をする人等、たくさんの方がいました。

人々が「ちょっとひと休みしたい」というときにこのような広場があることは、とても有効であると感じます。普段私も観光先で疲れたときにはベンチ等の公共スペースをよく利用していますが、今回もこの光景を見て思わず広場に足を運んでしまいました。

《汽車道》

最後に、汽車道を通って桜木町駅まで向かいました。桜木町駅前の日本メモリアルパークから赤レンガ倉庫等のある新港地区へと通ずるこの汽車道からは、みなとみらい地区周辺の景観が一望できるため、ゆっくりと楽しみながら歩いている人々が多いように感じました。実際私も気がつくとそのように歩いていました。

人々が単に「通過する」のではなく「楽しみながら回遊する」ために汽車道を利用しているのであれば、この通路は「まち歩き」にとっても重要な役割を果たしているのではないかと思います。

このように、景観形成だけでなく、それを眺め、楽しむことのできる場所を整備していくことも大切であると感じました。



汽車道からの景色（象の鼻パーク周辺）

5 おわりに

今回の視察に参加して感じたことは、まちづくりを進めるにあたっては、他の自治体の取り組みは直接自分の目で確かめるべきであるということです。進んで足を運び、様々な先進的事例を見ることで、「こういう考え方・手法もあるのか」と新たな発見をするかもしれませんし、それが本市のまちづくりにおいて重要なヒントになるかもしれないからです。

また、「ただ見て終わり」にするのではなく、そこで得たものを自分なりに解釈して活用し、今後に生かしていくことも重要であると思います。こういった経験を重ねていくことで、より地域の実状に即したまちづくりを行っていただけるのではないかと考えます。

最後に、この貴重な機会を与えてくださった茨城県都市計画協会の皆様や本視察にご尽力いただいた（財）都市づくりパブリックデザインセンターの皆様、本視察に快く送り出してくださいました上司、同僚の皆様に感謝いたします。